

月例発信 《外国人介護人材の明日を創る》

テーマ：循環する介護。日本の介護は海外へ、
介護人材は海外から日本へ。

会員

小川 利久 氏



株式会社エイジング・サポート代表取締役

1957年生まれ

青森県十和田市出身

1981年、新潟大学農学部林学科卒業

現(株)長谷工コーポレーション入社、販売企画、シニア事業企画等を担当、民間企業創生期の有料老人ホーム立上げを経験。

その後、シンクタンクにてシルバー事業等の企画、コンサル業務に携わる

2000年

社会福祉法人法人本部長に就任し、認知症高齢者グループホーム立上げ、ユニット型特別養護老人ホームの施設長を歴任

2013年4月

特養におけるユニットケア、認知症、口腔リハビリ、看取りの実践に基づき、独自の「統合ケアシステム (iASS)」を確立し、シンガポールで開催されたAgeing Asia Innovation Forum(AAIF)にてMAJOR AWARD受賞

2015年4月

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター東京分室スマート・エイジング・カレッジ(SAC)東京事務局長就任

スマート・エイジング・マネジメント・スクール開校

2015年7月

株式会社エイジング・サポート設立

介護経営サポートをスタート

2016年8月

Australasia Ageing Industry Training

Global Master classes 2015 にて講師を担当

2017年

東北大学スマート・エイジング・カレッジ

(SAC)東京コースⅣ「スマート・エイジング・

ケアビジネスの創出」を担当。

株式会社エイジング・サポート

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号

日本橋ライフサイエンスビルディング403号

TEL 03-6225-2438

FAX 03-6225-2962

エイジング・サポート・ブログ

<http://ageing-support.net>

フェイスブック (小川利久)

<https://www.facebook.com/toshihisa.oga>[wa.37](https://www.facebook.com/toshihisa.oga)

介護はプロの経営へ

6年ぶりの診療報酬と介護報酬の同時改定がスタートしました。今回はすでに介護保険施行から7回目の改定です。当初は制度の普及が優先し参入の間口は広く、事業の難易度もゆるく設定されました。そして「誰にでもできる介護事業」として多くの民間企業が参入してきました。しかし、今は高齢者人口の増加に伴い、介護財源が緊迫した状況です。当然、その配分が慎重になっていくのは当然の流れです。必要な情報を収集し、ニーズに沿った計画を立案実行し、継続的な社会貢献ができる「プロの経営」だけが生き延びる時代です。

介護はイノベーションへ

日本だけが変化しているわけではありません。生命科学の進化は世界中の多くの国へ高齢化をもたらしています。まだ「介護」という概念や経験を持たない若い東南アジアの国々でさえ確実に高齢化に向かっていきます。1989年に策定された「高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略」(ゴールドプラン)から介護保険制度施行などを経て社会構造、人の価値観、生活様式など様々な分野で変化がおきました。すでにシニアシフトしたビジネスマーケットの中で「介護はイノベーション」を繰り返しています。

介護はドリームへ

今、日本を追いかけるように高齢化が激しく進む国々から介護に関するオファーが殺到しています。28年かけて作り上げてきた日本の介護イノベーションから学びたいという要請です。その一つが「介護システム」です。世界の最先端をいく日本の介護はマネジメント、教育、人材育成、技術、サービス・商品開発など多義の分野に渡っています。

この動きと並行して動いているのが「外国人介護技能実習制度」です。東南アジアからやってくる若い人材が「日本の介護」を身につけることができます。

3年後を想像してみてください。彼らは自国の高齢社会を支えるために必要な経験と技術を有するパイオニアとなっていきます。さらに彼らの歩んだ道は「循環」を作り出し、日本以外の国々も支えながらグローバルなネットワークを広げていきます。

日本の国を支えてきた高齢者のいのちを世界のいのちへつなぐ、これこそ私が外国人介護技能実習生に思い描くミッションです。

介護のプロはイノベーションからドリームへ。

株式会社エイジング・サポート代表取締役 小川 利久